

コラム

《腰折れ文》 五、

渡邊澄子（会員）

明けておめでとうございます。でもちっともお目出度くなんてないのが本音だ。

昨一七年後半のニュースの中心は選挙とランプ米大統領のアジア歴訪だった。屋上屋を架すことになるが、大義なき憲法違反づくしの選挙だったのに真に民意だったのか不思議だが自民党が大勝した。「北」の脅威を煽る戦略で誘導した権力と金の力によるカラクリに、知性・理性の衰退著しい特に若年世代が易々と乗せられた感がある。だが勝ち負けは勝ちだ。振り返ってみると安倍政権誕生以後、政権批判を数の力で抑えて憲法上疑義のある数々の法案を強引に通してきている。日本のデモクラシーは危うくなっている。首相やその妻、さらに一部の閣僚その他の「教育勅語」称賛の発言

に日本会議が力をつけていて、昭和初期への時代回帰が想像されて怖くなる。ランプ大統領のアジア歴訪もなーんだ、武器売り込みだった。安倍氏は加計氏との交流を思わせる親密さでもてなしたがそれも税金。妻同伴の安倍首相の世界各地への頻繁な旅行も、まだ五万人以上もの困窮者がいるという原発事故犠牲者の救済をよそに原発に加えて武器の売り込みだが、その費用も税金だ。年収百万、二百万、三百万で住居費を含めて家族が憲法に保証された「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」ことができるのと安倍サンは思っているのだろうか。トランプ氏の要求にホイホイと請け合っ

購入すると約束している。年収百万の人にも八百万円の国の借金を背負わされているというのに、防衛費の激増は自衛隊を堂々たる軍隊にしようとしている事と繋がる。自虐的に敢えて卑猥な表現を使えば、私って「穴のあなが狭い」のだろうか、税金で実質「死の商人」と言える外遊が許せないのだ。私の学会や調査旅行は自費なので宿泊はビジネスホテルだし、飛行機はエコノミーだ。ビジネススクラスの体験が二度ある。エコノミーとこんなにも違うものか、ファーストならどんなだろう、生涯に一度体験してみたいと卑しく思ったこともある。ビジネススクラス体験の一度目は韓国の大学の創立五十周年祝賀会に講演を頼まれた時で、学科長から理事長まで連日の大袈裟な接待は、植民地として皇民化施策の歴史を思い辛かった。もう一度は国からの派遣で一年間客員教授として中国に赴任した時。ここへの赴任は男ばかりで、先にも後にも女の赴任は何故か私だけのよう

だ。宿舎は高級ホテルでレストラン、美容院、喫茶店他凡て半額の特典もある。男性達は妻子同伴でその人たちの滞在費も国から出るのだが、その額が過大過ぎる程過大なのだ。レストランで食事の時、みんなに、これ、税金でしょ、こんなに出すなんておかしいですよ。政府に過剰な出費は止めよと言おうかしら、と言ったら絶対言わないで、と真剣に言われてしまった。せめて税金分返済にと納税者の友人・知人達にごっそりお土産を買って帰った。私の体験はほんの一例だろう。せめて、安倍夫妻に使われた税金の総額を知りたい。そこを端緒にして防衛費をはじめ沖縄県民を苦しめている、反対を無視しての基地への経費や思いやり予算（思いやらなければならぬ日本人がゴマンといのに）他の中身の真実を知りたい。戦争が人間を容易に悪魔に変えるものであることを、新年は七三一部隊に関する膨大な書を読みながら考えることになるだろう。